

資料 3

玉川上水実地研修報告

日時:平成28年6月14日(火)13時30分～17時

実施場所:玉川上水と、その周辺の公園等の緑環境

視察の概要

視察目的

玉川上水は江戸時代に江戸市中へ水を送るためにつくられた上水であり、歴史的・文化的な側面からの価値を有する他、玉川上水両岸の緑地帯は、水道用地という立地条件から良好な自然環境が保持され、貴重な動植物の種の供給源(ジーン・バンク)としても機能している。

今回、市内の玉川上水沿いを実際に歩き、様子を観察することで歴史等の知見を深め、緑と水の環境や生物多様性の状況を理解するための機会とする。

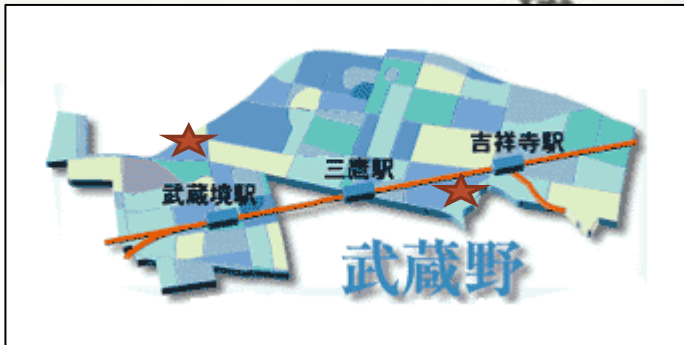
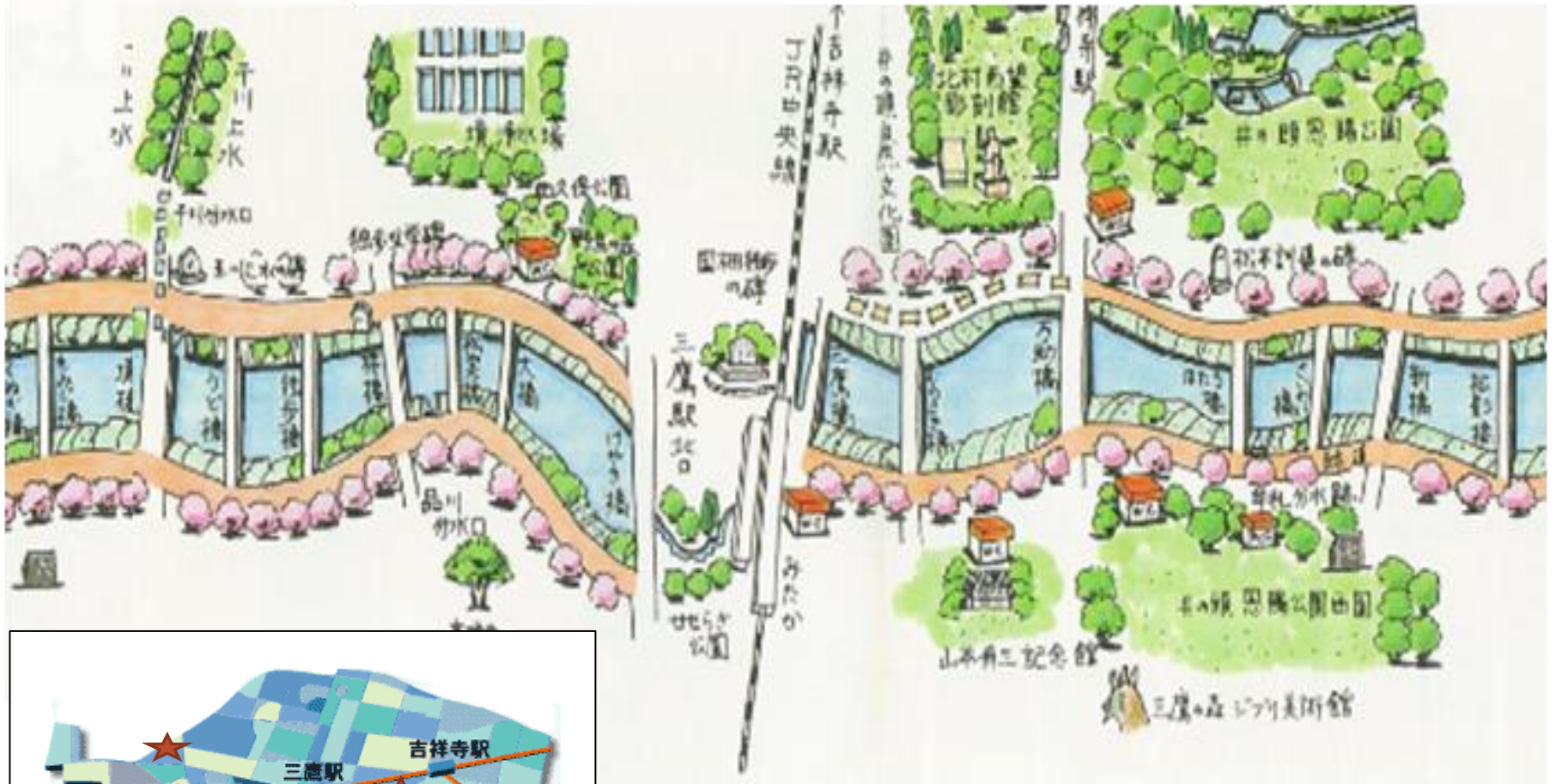
参加者

- 委員 6名
- 市職員 3名
- 武蔵野自然塾関係者 1名

見学スケジュール

時間	内容
午後1時30分 ～1時40分	境橋集合、出発
	境山野緑地(立ち寄り) ↓ 桜橋 境浄水場 ↓ 野鳥の森公園(立ち寄り) けやき橋 ↓ 万助橋
午後5時頃	井の頭公園で解散

全体行程 (約4.5km)



(財) 東京都公園協会「玉川上水散策マップ」より一部転載

境橋～境山野緑地



境橋
ここから千川上水に分水している

境橋～境山野緑地

ノカンゾウなどの植物や、
オトシブミが巻いた葉っぱなど
を観察することができた。



境山野緑地



木を適切に切っていないと、日の光が入らず、下の植物が育たないが、山野緑地では木の伐採に規制がかけられている。

境山野緑地



木から種が落ちて生えてきた植物

境山野緑地～野鳥の森公園

境浄水場沿い



境山野緑地～野鳥の森公園



珍しいハグロトンボを発見。
この日は他にもアオダイショウ
やシマヘビにも遭遇した。

野鳥の森公園～井の頭公園



御殿山近辺
人が植えたと思われる観葉植物
などがいくつか見受けられた

野鳥の森公園～井の頭公園



人が植えたと思われる
ビワの繁殖

野鳥の森公園～井の頭公園



井の頭公園は、渡り鳥などの
生き物たちの重要な休憩
スポットとなっている。

アンケート結果について

■ 見学時間

ちょうど良いという意見が多数、もう少し伸ばしても良いという意見もあった。

■ 参考になったもの

植物などの生物多様性に関する解説、実際の玉川上水の様子に二分された。

見るものが多く、文化や歴史まで十分に踏み込めなかったことも要因の一つと考えられる。

アンケート結果について

■ 感想

身近な生き物や自然を実感でき良かった、という意見が多数あった。

他にも、食に資するかどうかなど市民の関心を集めるトピックが市民への広報的な役割を果たすのではないか、もっと時間を取ってディスカッションなどもできたらよかった、との意見もあった。

■ 今後について

玉川上水上流の見学、エネルギーなど他分野に関する実地研修、外来種を排除し、武蔵野本来の植物を増やす企画等について要望が挙がった。

担当者所感

◇ 既成市街地といわれる武蔵野市。以前から水や緑に関する施策には力を入れており、見た目からも自然が豊富なことはわかっていたが、実際に歩いてみることでさらにその思いが深まった。

後からつくられた自然ではあるものの身近に多くの自然があることは大切である。自然を残すために努力をしてきた方に感謝しなければならない。

◇ これほど豊富な自然。玉川上水や多くの公園などが日々の当たり前の中に溶け込んでいて、普段は特別には思わないが、自分たちが武蔵野市で快適な生活をおくれている要因のひとつはこの水や緑の自然があるからこそ。なければ、ここまで快適に過ごすことはできていないかもしれない。

このようなそれぞれが互いにつながっている関係・感覚が、生物多様性なのかと感じた。